

[成果情報名] 農業法人を対象とした経営評価ソフトの開発

[要 約] 農業法人決算書を入力することで、経営を評価する法人向け経営評価ソフトを開発した。

[キーワード] 経営評価ソフト、農業法人、経営指導

[担 当] 静岡農林技研・農業ロボット・経営戦略科

[連絡先] 電話 0538-36-1551、電子メール [agrikeyei@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:agrikeyei@pref.shizuoka.lg.jp)

[区 分] 経営

[分類] 技術・普及

---

[背景・ねらい]

J Aや県の農業技術指導員を対象に、農業法人の決算書から経営状況が見える化するソフトを開発する。

[成果の内容・特徴]

- 1 法人向け経営評価ソフトの入力は、4つのステップで構成され、各ステップを入力することで全体の売上・経費の評価、品目別売上、経費の評価、損益分岐点分析、財務諸表分析が可能である（表1、表2）。
- 2 ステップ2では、損益計算書の収支を入力することで、全体の売上、経費がグラフで評価される（図1）。また、損益計算書を複数年入力することで、経年での比較、評価が可能となる。
- 3 ステップ3では、製造原価報告書の経費を入力することで、品目別の売上、経費がグラフで評価される。また、損益分岐点分析の評価も可能となる（図2）。なお、法人決算書は経費科目の数が多く、入力が煩雑となるため、各経費の小計が全体の8割を超えたところで、残りの経費は“その他経費”として入力を省略できる（図3）。
- 4 ステップ4では、貸借対照表を入力することで、財務諸表分析が可能となる。財務諸表分析は29項目の指標を分析し、特に重要とされる10項目はレーダーチャートで評価する（図4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本ソフトはMicrosoft Office Excelにて作成されており、Excel2010以降のバージョンに対応している。また、本ソフトはマクロ機能を使わず、関数による計算を主体に構成されている。
- 2 本ソフトは本県のJ A及び県の農業技術指導員の利用が可能である。

[具体的データ]

表1 法人向け経営評価ソフトの入力内容

段階	入力内容
ステップ1	作目、面積(a)、収量(kg)、労働力(人)
ステップ2	損益計算書(千円)
ステップ3	製造原価報告書(千円)
ステップ4	貸借対照表(千円)

表2 法人向け経営評価ソフトの機能

法人向け 経営評価ソフト	(参考) 個別経営体向け※ 経営評価ソフト
・全体の売上、経費分析	・全体の売上、経費分析
・品目別売上、経費分析	・品目別売上、経費分析
・損益分岐点分析	・経営試算
・財務諸表分析	・他の農家との経営比較

※個別経営体を対象とした経営評価ソフトである。  
 成果情報：損益計算書を活用した経営評価ソフトの開発(2017)

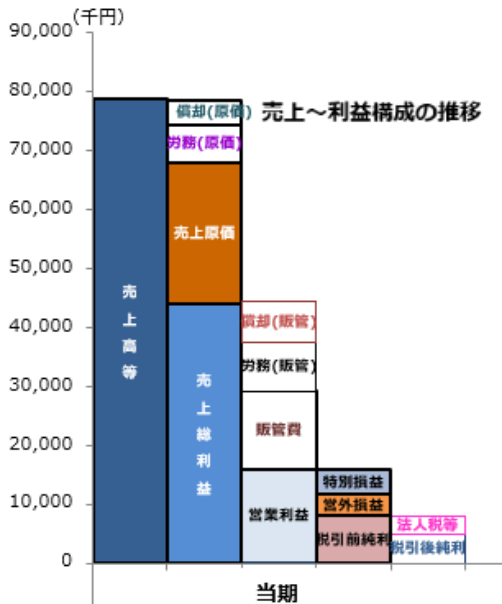


図1 売上・経費分析

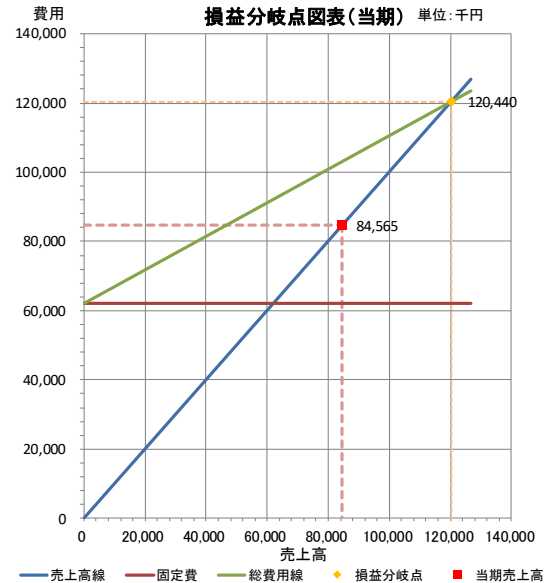


図2 損益分岐点分析

合計経費	
他の生産費	13,000
土地改良費	1,500
電力費	
水道費	
運賃	
修繕費	2,500
保険料	
消耗品費	4,000
燃料費	2,400
その他生産費	2,600

各経費の入力が、全経費の8割を超えると「OK」が出て以下入力不要

図3 経費入力画面

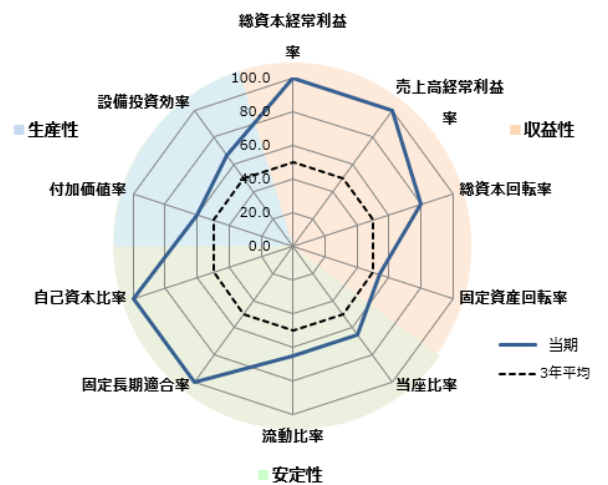


図4 財務諸表分析

※分析値は平均との相対値を示す。

[その他]

研究課題名：ビジネス経営体の発展過程の解析による育成支援策の提案

予算区分：県単

研究期間：2017～2019年度

研究担当者：山崎成浩、長藤亮彦